

令和元年11月14日

調査・研修報告書（会派個人用）

報告者：徳永泰臣

実施場所：西城市民病院・しあわせ館	実施日：令和元年11月9～10日
<p>■目的・課題・問題事項</p> <p>○ 第5回中山間地域の諸課題解決セミナー</p> <p>1日目は庄原市立西城市民病院の地域包括ケアと取り組みについて</p> <p>2日目は中国新聞デスクの平井敦子氏の基調報告「地域医療を支えるために」を聞き西城市民病院郷力院長・庄原市社会福祉協議会山内会長・庄原市高齢者福祉課、毛利課長</p> <p>NPO法人苫屋保村副理事長によるパネルディスカッション「地域医療を支えるために」と題して、それぞれの取り組みを報告され、コーディネーター平井敦子さんから総評をいただいた。</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>○特に庄原市立西城市民病院の取り組みは、地域住民の安心を守るために、昭和53年から誕生日検診を始められるなど、予防からリハビリまでの一貫した地域包括医療を目指して取り組んでこられた。</p> <p>○平成12年には西城保健福祉センター「しあわせ館」を併設し、西城市民病院を中核とした保険・医療・福祉・介護分野の一体的なサービス提供が出来る地域包括医療・ケアのしくみづくりを確立された。</p> <p>○地域包括ケアを地域づくりとしてとらえ、地域の方、関係者、職員それぞれが同じ目標に向かって共に取り組んでおられる。</p> <p>○西城市民病院では「診療体制や看護体制の充実」「病床変換」「巡回診療の開設」「訪問看護（サテライト設置・訪問リハ導入）の充実」「介護予防事業の充実」「検診事業の充実」などを行われ、地域包括医療ケアシステムの充実を図られている。</p> <p>○又、当施設は、環境整備や患者様の見守り・介助など多くの病院ボランティアの心温まる支援により運営されている。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>○この西城市民病院としあわせ館の取り組み等、他地域への波及については、人的問題も含め、それぞれの地域性もあり、それに合わせた地域包括医療システムを進めていく事が大切と考える。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調 査・研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名：きずな

報告者：桂藤 和夫

実施場所：第5回「中山間地域の諸課題解決セミナー」(庄原市立西城市民病院)	実施日：令和元年 11 月 9 日～10 日
<p>■目的・課題・問題事項 (調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など)</p> <p>★今回は本市や近隣自治体が抱える医療・福祉の課題解決について、幹事市として、西城市民病院の取組みや施設見学とパネルディスカッションを通じて学ぶことにした。</p> <p>〈第1日目 11月9日(土)〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 講演会「元気な今から始めよう！ “サヨナラ” の準備」 中村 伸一 先生 (福井県おおい町 名田庄診療所 所長) ● 視察見学 庄原市立西城市民病院・しあわせ館…説明・案内 郷力 和明 院長 <p>〈第2日目 11月10日(日)〉…西城市民病院 隣り「しあわせ館」</p> <ul style="list-style-type: none"> ● パネルディスカッション 『地域医療を支えるために』 <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター…平井 敦子さん(中国新聞社 文化部デスク) ・パネリスト…郷力 和明 氏(庄原市立西城市民病院 院長)・山内 文雄 氏(庄原市社会福祉協議会 会長)・毛利 久子さん(庄原市役所 高齢者福祉課長)・保村 深雪さん(NPO 法人 癒しの家 苫屋 副理事長) 	
<p>■参考とすべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎中山間地域の共通課題である人口減少社会・超高齢化社会を迎え、医療資源も不足している中で、限られた医療スタッフや介護人材で地域の保健・医療・福祉・介護の一体的サービスの提供が出来るよう、包括医療・ケアに地域、関係者、職員が同じ目標に向かって取り組まれていること。 ◎西城市民病院を核とした西城町の地域包括医療・ケアチームが作られ、医療・介護連携や生活支援・介護予防体制が構築されていること。 ◎地域連携室を発足され、患者の診察から治療、在宅療養、介護等一貫したサービスが困難な状況下で、地域医療機関の専門性や特性による機能分担を図り、患者の身近な地域で状態にあった適切な医療提供をするため、地域医療機関との連携調整業務や地域の医療機関、介護施設等からの紹介受付をされ、円滑な連携や必要な支援ができるようにされていたこと。 ◎「ヨロヨロ期」(①通院が難しくなる②車の運転が難しくなる③自宅での家事、する気なくなる④1人、2人暮らしで頼れる人がそばにいない)を迎えた時に対する構えが必要で、人、モノ、金が限られている中で医療と付き合いながらどうしていけば良いのか？コンパクトに暮らし、療養生活を支える方向で考えていく必要があると言われたこと。 	
<p>■提言・その他 (本市の施策等にどのように活用すべきか など)</p> <p>◇本市を取り巻く状況は人口減少に歯止めがかからず、高齢化率も日本全体の40年先を行っている。本市の日常生活圏域は7つあり、医療資源等に違いがあるが、地域包括ケアシステムの構築・深化に向け、通院サポート、訪問医療・介護、暮らしを支える介護サービス、住まいのサポートをしっかりと検討し、さらには自治振興区ごとの地域の見守り体制を強化する必要があると思うので、関係者や市民、地域の声を聞きながら推進すべきだと思う。</p> <p>◇地域によって医療資源や地域資源に差異があり、これからは地域の役割が増えてくるのが予測されるので、自治振興区を含めた関係者で議論し、高齢者福祉計画や人生100年時代への取り組みを推進していかなければならない。</p>	

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名： きずな

報告者： 五島 誠

実施場所：庄原市西城町 しあわせ館	実施日：2019年11月9日10日
<p>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</p> <p>中山間地域の諸課題解決セミナー 地域医療を支えるために 西城市民病院の取り組み</p>	
<p>■参考とすべき事項</p> <p>・他の市町の議員の方などと一緒に西城市民病院の取り組みや施設を視察する事により、改めて西城市民病院の地域包括ケアの取り組みはモデル事例であると感じた。 病院、行政、社協がしっかりと連携をとることが出来る体制づくりやリーダーの存在、先を見越していく施設管理など他市の議員の方も感心しておられた。 ・やはり課題とすれば他の地域へどのように落とし込んでいくか、市民の皆様をうまく巻き込んでいけるか、さらに進めていくためには民間の方やNPOなどとの情報共有と連携であろうと感じる。</p>	
<p>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</p> <p>・さらなる情報発信力の強化 ・NPOなどとの意思疎通や市民を巻き込む動きを更に進めていく事。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： きずな

報告者： 林 高正

実施場所：第 5 回 中山間地域の 諸課題解決セミナー	実施日：令和元年 11 月 9 日～10 日
■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など） 昨年の中山間地域の諸課題解決セミナーは、岡山県高梁市川上町での地域包括ケアシステムの研修でしたが、今回は、庄原市西城町にある西城市民病院を核とした地域包括ケアシステムについての取り組みを視察・研修するものである。	
■参考とすべき事項 西城市民病院に隣接している西城保健福祉センター「しあわせ館」を平成 12 年に開館したことで、病院を中核とした保健・医療・福祉・介護分野の一体的なサービスの提供ができる地域包括医療・ケアの仕組み作りがスタートしました。そして、診療体制や看護体制の充実、巡回診療の開設、訪問診療の充実、訪問看護の充実、介護予防事業の充実、検診事業の充実などを積極的に行い、地域包括ケアシステムの充実を図っておられます。 現在、西城市民病院には地域連携室を設置しておられ、地域の医療機関との連絡調整業務や介護施設等からの紹介受付など、患者や家族の抱える不安や悩みを一緒になって考えて課題解決にあたっておられます。そのために 3 名の専門員が常駐しており、具体的には、入退院の相談窓口、退院後の社会復帰・在宅医療への橋渡し役として、地域の医療・保健・福祉施設との連携調整を行っておられます。	
■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など） 庄原市立西城市民病院というネーミングですので、西城だけでの取り組みだけに限定せず、東城にサテライトがある様に、各地に西城方式の包括ケアのサテライトが開設できるようなことにならないかと思っています。時間はかかるかも知れませんが、お手本がある訳ですから、各地の実情を考慮しながらアレンジすれば、口和方式や高野方式もできると考えます。 要は、住み慣れた自宅で安心して過ごせる状況をいかに提供するかということだと思います。今回は、西城市民病院の郷力院長、庄原市社会福祉協議会の山内会長、庄原市高齢者福祉課の毛利課長、癒しの家苫屋副理事長の保村さんの 4 名のパネリストと中国新聞文化部デスクの平井さんによるパネルディスカッションは、それぞれの立場での発表でしたが、皆さん頑張っておられることが実感できる素晴らしいものでした。この取り組みを多くの皆さんに知っていただき、住民主体で、住みよい庄原を創り上げていきましょう。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

調査・研修報告書(会派個人用)

会派名：きずな

報告者：山田聖三

実施場所 ：庄原市西本町 庄原グランドホテル 庄原市西城町 保健福祉センター しあわせ館	実施日 ：令和元年11月9日 ～11月10日
■目的・課題・問題事項(調査・研修に先立っての思いや本市の現状など) ・中山間地域の諸課題解決を図ることを目的として、今回は「地域医療を支えるためには」を考える。	
■参考とすべき事項 第5回中山間地域の諸課題解決セミナーに学ぶ。 11月9日 ○講演会 演題「元気な今から始めよう!“サヨナラ”の準備」 講師 中村伸一氏 (福井県おおい町名田庄診療所 所長) 【中村伸一医師】 昭和38年福井県三国町に生まれる。自治医科大学を卒業、福井県立病院で2年間の初期研修を終了した後、名田庄診療所所長として赴任し現在に至る。医師として、1つには癌の早期発見。誕生月胃カメラ検診を診療所で行うことによって、癌の早期発見はもとより、病気が悪くなってから医療機関にかかるのではなく、具合が悪くなくても診療所へ来られるというしくみをつくることができた。2つ目は終末期の在宅医療。患者が安心して自宅で最期を迎えることは、医療の中でとても大切なことだとの考えがある。 【保健・医療・福祉の連携】 平成3年10月、診療所・役場保健福祉課・社協の全スタッフが参加する「健康と福祉を考える会」が結成され連携が始まった。平成11年4月には、単なる公共施設にとどまらない住民から親しまれる暖かい雰囲気を持った保健・医療・福祉の総合施設「あっとほ〜む いきいき館」が完成し、地域包括医療・ケアの拠点ができた。また、在宅医療の充実にとって、地域の絆や支えあいは重要な要素である。 11月10日 ○基調報告 「地域医療を支えるために」 平井敦子氏 (中国新聞社文化部デスク) ○パネルディスカッション 「地域医療を支えるために」 コーディネーター 平井敦子氏 パネリスト 郷力和明氏 (庄原市立西城市民病院 院長) 山内文雄氏 (庄原市社会福祉協議会 会長) 毛利久子氏 (庄原市高齢者福祉課 課長) 保村深雪氏 (NPO 法人癒しの家 副理事長)	
■提言・その他(本市の施策等にどのように活用すべきか など) 地域医療については、医師の考え方・取組みが重要であり、名田庄地区においては、名田庄診療所及び中村医師の存在は大変大きいものがある。本市の場合、西城市民病院が地域医療・介護の拠点として、大きな役割を果たしている。今後、西城市民病院の受け持ち範囲を広げていくことと、その他の地域における拠点づくりが求められる。そして、更なる保健・医療・福祉・地域の連携充実が重要である。	